

# シニアのゲンキで マチが輝く!! 😊

<<少子高齢化社会のなか、高齢者はもとより、これから年齢を重ねていくすべての方々が、豊富な経験や技術を活かし、生涯を通じて仕事や地域活動、生涯学習・スポーツなど、さまざまな分野でイキキと活躍していただける社会(生涯現役社会)づくりが望まれています。お元気な高齢者がたくさんいらっしゃることで、活気にあふれる地域社会となっていきます。そこで、おゲンキなシニア世代の方々に、シリーズでご登場いただきます。

## 地域の「お世話係」として

高杉さんが地域の「お世話係」をするようになったのは、今から20年余り前、自治会の役員を引き受けられたのがキッカケでした。ほぼ同時期に、富田東小学校区の子ども会活動に参加され、以後、地元の物流会社にお勤めのかたわら、さまざまな分野で活動してこられました。

また、ボランティアグループ「めだかの会」で活動されたのち、身体に障害のある方々やボランティアが公的行事に参加する際の送迎を行う「アッシーの会」の設立に協力されるほか、新南陽ボランティア連絡協議会の会長として、ボランティアによる新南陽地域全体の福祉の向上にも取り組んでおられます。

## 『自分探し』から見えてきたもの

“自治会や子ども会で地域のお世話をしていたとき、身体に障害のある方々の疑似体験をする「キャップハンディ・オリエンタリング」という試みに参加する機会がありました。参加者が実際に体験することで、障害をもって生活するということへの意識が変わっていく様子がたいへん印象的だったのですが、その試みを行ったボランティアグループの「めだかの会」に少しずつ顔を出すうちに、熱烈的な勧誘を受けてスタッフになりました。



## ボランティアから始まった「自分探し」

新南陽ボランティア連絡協議会会長 **高杉信之さん(59)**  
Nobuyuki Takasugi

「めだかの会」で行った「夜間ウォーク」では、車椅子を使って生活する方々とともに、夜10時に新南陽の公民館を出発して、光市の虹ヶ浜海水浴場まで歩きました。小雨の降りしきるなか、この試みに関心をもって参加してくれた若い人たちが必死になって頑張ってくれました。

朝6時、ゴールにたどり着いたとき、みんなで力をあわせてやり遂げたという達成感と、支えてくれた方々への感謝の気持ちで、胸が熱くなりましたね。”

“極端に言うと、私のボランティアは、『自分探し』そのものです。「めだかの会」の人の熱意に押されて始めたボランティアですが、20年余りの間、さまざまな活動を続けるうちに、自分の中に「やりたいこと」が次第に芽生えてきました。まだ、大輪の花を咲かせるほどではありませんが、自分の内側にある思いを、発信していきたいと思っています。”

“地域の中にたくさんの課題や

活動があることに目を向けてもらって、「どうなってるの?」と気軽に首を突っ込んでもらえるような雰囲気や環境をつくりたいと思っています。誰もが住みよい地域をつくるには、たくさんの方の参加が欠かせませんから。”、そう語られる高杉さんの穏やかな瞳が、キラキラと輝きました。

地域の「お世話係」から始まった、高杉さんの『自分探し』。人と人との関わり合いの中で、自分自身を見つめ、生きることの意味や、人が社会にどのように関わっていけばいいのかを発見されたようです。

ボランティア活動には、日常の暮らしの中では気づけないことが発見できたり、出会うことになかった領域の人と出会い、人の生き方を考えさせられたり、そうした場面が数々あります。未知との出会いは、自分自身を見つめ直す機会となっていることを、高杉さんのお話を伺って再認識させていただきました。